

近年の沖縄県における木造住宅生産に関する研究

日本建築学会計画系論文集 第75巻 第647号/pp.193-200/2010年1月

正会員 権藤 智之 君

沖縄県は、戦後の大量の基地建設で RC 系の生産体制が整ったことなどから、木造住宅の供給実績が極端に少ないことで知られる。そのため、県内にプレカット工場が存在しないなど、本土の建築生産システムとは大きく異なる事情下にある。ただ、近年は沖縄での木造住宅生産は 10%程度に増えつつある。本論文はその過渡期の事情をタイミングよく捉えたものであり、関連分野の論文蓄積が多いなかで、隙間を埋めるテーマ設定といえる。調査は 2007 年に供給された木造住宅の約 8 割を担った沖縄本島の工務店・設計事務所、そして、沖縄への資材供給源となっている南九州のプレカット工場などへのインタビューを踏まえた悉皆的なものである。記述内容は多面的で、生産者の木造住宅事業の開始経緯とその特性分析、主材料である木材の移入状況、プレカット工法普及の経緯、施工技術者確保の課題、本土と比べた建築技術的特徴などをカバーし、要領よくまとめている。